

二本松市教育委員会会議録

令和4年11月24日午後3時15分二本松市教育委員会定例会議を二本松市役所教育委員会室に招集した。

○会議に出席した委員は次のとおりである。(発言内容を簡略化)

教 育 長	丹 野 学
教育長職務代理者	佐 藤 英 之
教 育 委 員	関 奈央子
教 育 委 員	関 健 至
教 育 委 員	太 田 左恵子

○会議に説明のため出席した職員は次のとおりである。

教 育 部 長	内 藤 徳 夫
教育総務課長	大 内 真 利
学校教育課長	太 田 孝 志
生涯学習課長	関 博
文化課長	鈴 木 啓 樹

○教育長（丹野） ただいまから令和4年二本松市教育委員会11月定例会を開会いたします。

(宣言 午後3時15分)

○教育長（丹野） これより会議に入ります。

委員の出席状況を報告します。現在の出席者は、5名であります。会議の定足数に達しておりますので、本会議は成立いたしました。

次に「2 会議日程の決定」ですが、会議が終了するまでといたします。

続きまして「3 会議録署名人の決定」ですが、関奈央子委員と太田左恵子委員の2名を指名いたします。

それでは、「4 前回会議録朗読承認」を事務局よりお願いします。

(事務局より、令和4年10月27日の会議録を朗読)

○教育長（丹野） ただいま事務局より会議録の朗読がありましたが、これについて皆様からご質問等がありますでしょうか。

(質問等なし)

○教育長（丹野） それでは、ただいまの会議録については、承認することよろしいですか。

(異議なし)

○教育長（丹野） ただいまの会議録については、承認されました。

これより「5 教育長報告」に移ります。本日14件を予定しておりますが、

本日特に皆さんと北秋田市への行政視察を通して、今後の二本松市の教育に関してどの様に感じたのか等、夢も含めて語り合っていく時間を設けたいと思います。その他の部分につきましてもその都度ご意見等がありましたら、お願いします。

○**教育長（丹野）** それでは、「1 市議会12月定例会について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 説明ありましたとおり12月6日召集予定となっております。ご承知おきください。

続いて、「2 新型コロナウイルスの感染状況について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** やはり想定しておりましたとおり感染者の数が増えてきているということです。なお、教育委員会事務局におきましては、今後予定されております忘年会、あるいは新年会、新春賀詞交歓会等についても私を始め教育委員会として、やむを得ず自粛をさせていただくことにしております。ご承知おきください。

この件に関しまして、ご質問等がありますでしょうか。

○**太田委員** 以前にも伺ったことがあります、感染した子どもたちの症状等は、何か変化があったりしているのでしょうか。

○**学校教育課長** 発熱症状により医療機関を受診して、検査の結果陽性反応が出るお子さんが増えております。ただし、子どもたちによって症状や無症状の場合もあります。家庭の中では無症状でいて、学校に行く前に抗原検査を実施したら陽性であったといったお子さんもおおり、個人個人によって違っております。発熱による体調不良の報告も入ってきております。

○**太田委員** ありがとうございます。

○**教育長（丹野）** 太田委員が仰っている指摘というのは、重要な部分があると思います。

次に移ります。「3 第7回二本松市立小学校及び中学校適正規模等調査検討会開催結果について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** ただいま事務局より説明がありましたが、「適正規模」に関する答申は、私たち5人に出していただくこととなります。その次の「適正配置」のステージに立ちますと我々だけの問題では済みませんので、答申は我々で受け取りますが、教育委員会と市長部局とで協議をしながら進めていくことになると思います。

二本松市の検討の進め方が他市町村と根本的に違うのは、一番が子どもたちの学びやすさの追求であるということです。そのために最も重要なのは、「今学ぶ子どもと保護者が、どう思うか」ということです。最初にアンケート調査を実施してから検討を始めているのです。と言いますのは、子どもと保護者ではなく、地域で「適正配置」ばかりを考えてしまいがちであり、それは本来おかしいということです。

今後の進め方については、まだ不確定な部分がありますが、今の内容につきましては、過日の北秋田市での行政視察にも関係して参りますので、その段階のところで皆さんの意見も取り混ぜながら話し合いをしていく方が合理的であると思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** なお、太田委員は、今回の行政視察に参加いただけませんが、だからこそ他の皆さんが視察で感じられたことを太田委員へお伝えして、それを加味しながら太田委員は客観的にお話ができることになると思いますので、後程よろしくお願ひします。

続いて、「4 第53回東和ロードレース大会の開催結果について」と「5 第33回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会の結果について」は、一括して事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 以上です。よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** 続いて、「6 駐日クウェート国大使招待事業の中止について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 中止は残念ですが、報告のとおりであります。よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** 続いて、「7 寄附の受納について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** よろしいですね。次に移ります。「8 二本松市歴史館の入館者数について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 以上説明がありました。よろしいでしょうか。

○**太田委員** 先日菊人形と歴史館に行きまして、気が付いたことがあり、ちょっとした工夫で菊人形のお客さんをもっと歴史館へご案内できると思ひました。

市役所のどちらへお話しすれば良いのでしょうか。

○**教育部長** 菊人形を所管しております観光課でも構いませんが、歴史館の方は私ども教育委員会の所管ですので、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

○**太田委員** 分かりました。まとめましておきます。

○**教育長（丹野）** 続いて、『9 芸術鑑賞事業「世良公則・宇崎竜童コンサート」について』は、資料に記載のとおりであります。委員の皆様がご出席いただける場合には、文化課において席を準備しますので文化課長までお申し出ください。よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** よろしく申し上げます。次の「10 二本松市教育委員会行政視察実施結果について」は、順番を変更して最後にさせていただきます。

「11 その他」の「(1) 二本松南小学校校舎長寿命化改良工事について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 以上、報告であります。

続いて、「(2) 学校給食費に係る物価高騰について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 説明のとおりの方針であります。この件に関しまして、皆様よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** そのようなことで進めて参りますので、よろしく申し上げます。

次に「(3) 二十歳のつどいについて」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 説明のとおりです。コロナの感染状況もありますので、当面は4会場に分散しての開催が続くことになろうかと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** ありがとうございます。

続いて、「(4) フッ化物洗口について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** よろしく願いいたします。それでは、1項目を除いて次を進めてしまいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声）

○**教育長（丹野）** それでは、「6 提出議案」3件であります。

「(1) 議案第21号 教育委員会関係条例の制定について」事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 説明が終わりました。ご質問等がありますでしょうか。

(「なし」の声)

○教育長(丹野) それでは、「(1) 議案第21号 教育委員会関係条例の制定について」は、原案のとおり可決することで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○教育長(丹野) ありがとうございます。「(1) 議案第21号 教育委員会関係条例の制定について」は、原案のとおり可決しました。

続いて、「(2) 議案第22号 令和4年度教育委員会関係補正予算について」事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 説明が終わりました。ご質問等がありますでしょうか。

(「なし」の声)

○教育長(丹野) それでは、「(2) 議案第22号 令和4年度教育委員会関係補正予算について」は、原案のとおり可決することで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○教育長(丹野) ありがとうございます。「(2) 議案第22号 令和4年度教育委員会関係補正予算について」は、原案のとおり可決しました。

続いて、「(3) 議案第23号 二本松市城山市民プールの指定管理者の指定について」事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 担当の生涯学習課長と話をしておりましたが、これまで指定管理を請け負っていた業者が変更することにより、利用者に支障をきたすことはないかという点について、生涯学習課長から説明をお願いします。

○生涯学習課 こちらは、令和5年4月1日から指定管理者が替わることになりますが、引き継ぎ期間を十分に取り、綿密な引継ぎを取っていただくこととし、利用者にとって不便を来さない形で進めて参りたいと考えております。

○教育長(丹野) 説明のとおり支障が生じることのないように引き継ぎを行って参ります。また今回指定管理者となる特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会そのものが、しっかりとした仕事をする企業であるとの説明も受けておりますので問題はないであろうと考えたところです。皆様からご意見等は、ありませんでしょうか。

○太田委員 このような施設の管理ができる企業等は、地元や県内にはないものなんでしょうか。

○生涯学習課長 プール専門となりますと全国でも管理できる企業数は、少ない状況になっております。

○太田委員 ありがとうございます。

○教育長（丹野） その他ありますか。

（「なし」の声）

○教育長（丹野） それでは、「（３）議案第２３号 二本松市城山市民プールの指定管理者の指定について」は、原案のとおり可決することで、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

○教育長（丹野） ありがとうございます。「（３）議案第２３号 二本松市城山市民プールの指定管理者の指定について」は、原案のとおり可決しました。

続けて、「７ 協議事項」に入ります。「（１）次期教育委員会の開催日程について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） 可能であれば、事務局提案よりも開始時間を１時間早めて午後２時開始では、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

○教育長（丹野） ありがとうございます。それでは次回定例会は、１２月２２日（木）午後２時からとさせていただきます。

続いて、「（２）今後の日程について」事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） 現時点では予定はないとのことです。

それでは、前に戻りまして、「５ 教育長報告」の「１０ 二本松市教育委員会行政視察実施結果について」に入ります。事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） それでは、関健至委員から順に北秋田市の小学校２校、中学校１校を視察いただいたの感想等を出していただき、それらに対して太田委員から質問等をいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○関健至委員 最初に視察したのは、阿仁合小学校であり、田舎の学校なのですが、校舎に入ると学校全体が掲示板で溢れていて、全校児童２９人しかいない学校とは思えない位に学校がまるで文化祭なのかという位の掲示物の量でありました。授業も皆笑顔で楽しそうで、学校が娯楽施設なのではないかと思えるように生き生きとした感じで発表もしていました。１クラス５人程度なのですが、少人数には感じませんでした。本当に素晴らしい学校であると感じました。

その後阿仁中学校に行き、３年生のプレゼンを見せていただいたのですが、そのまま会社に出て社会人になれるのではないかと思える位の内容でした。

来年には、義務教育学園になるとのことで、この街にいても全然寂しくないなと感じました。

翌日は、鷹巣東小学校を視察しました。全校児童77人で、4～6年生の授業は二本松市の学校と同じような感じがしました。先生が教えて、子どもたちは普通に聞いている。人数が多いから良いのだろうかということを感じました。人数が少ないなりに先生たちが色々考える。また人数が多い15人位だったと思いますが、ただ先生が教えているだけの授業と感じて、やはり先生の質も重要なのではないかと感じました。

○**関奈央子委員** 大変有意義な視察をさせていただき感謝します。最初に阿仁合小学校と阿仁中学校を視察させていただいた感想ですが、少人数で凄くレベルの高い授業だと思いました。特に中学3年生の英語の授業が素晴らしく、自分の言葉で発表も行いプレゼンテーションもして、また質疑応答の様子も素晴らしかったです。その後の「ふるさと活性化」のプレゼンテーションも物凄く良くてレベルが高く、地元のことを考えて、自分たちができることを探して、外に発信するということができるということが、ふるさと教育の成果なのだとということが分かりました。

小規模校ということですが、地元に残すことが素晴らしいなということ、その分の行政コストと統合するコストを踏まえたうえで検討していかなければならないとは思いますが、それでもこのような素晴らしい学校だと移住者が増えて活性化する可能性もあるのではないかと思います。

次の日の鷹巣東小学校ですが、私は児童たちが凄く落ち着いていることにまず驚きました。ただ元気が良いだけで子どもらしいとするだけでは、ダメなのだと思いました。授業の中での会話の受け答えの例が壁に貼ってあり、最初はお互いの意見を尊重し合って授業を進めていくということがきちんとできているためにこのように落ち着いているのかなと思いました。小学5年生の「米プロジェクト」の発表なのですが、米作りのうちただ田植えや稲刈りをするだけではだめで、年間を通じて全ての農作業を体験するという内容でした。師匠として20代の方が子どもたちを指導しているとのことですが、子どもたちが自ら体験することで、農作業を楽にするために改善するためにはどうするか、美味しくするためにはどうするか等、将来自分が職業として農業を選んだときのイメージを膨らませることができるのではないかと話されており、大変すばらしいなと思いました。

二本松市でも同じような取り組みができれば良いなと思い、特に二本松市では「循環型農業推進協議会」というものを立ち上げて有機農業を積極的にやろうとしておりますので、二本松市独自の取り組みができれば凄く良いなと考えております。農林水産省が進めている「オーガニックビレッジ」という環境に

優しい農業というものも県内唯一、二本松市で取り組んでおりますので、小中学校にも広げられれば良いなと思いながら帰って来ました。ありがとうございました。

○佐藤教育長職務代理者 秋田県は全国的に学力が高いため、一般的には「核家族ではなく3世代が揃っている」とか、「家に帰ると祖父母が居て宿題もきちんとやっている」なんていうイメージを持っておりましたが、視察に行って子どもたちの様子を見まして、これはやはり学力が高いなと素直に思いました。

では、なぜなのかと考えましたが、北秋田市の教育ビジョン等を見ましても本市とそれ程の違いはないのですが、私が現職のときに思ったものと違うのは、北秋田市は、塾も少ないし、進学等で流出するとなかなか戻ってこないこともあるため、「市の人材を育てる」という意識が強いのではないかと思います。

私はどちらかと言えば、子どもたちの夢や希望等を大事にして「その目標達成のためには」との視点に重きを置いていたのですが、北秋田市においては「市の将来の人材を育てる」という意識と「そこに定着させたい」そのような取り組みが本市と違うのではないかと思います。

授業を見ましても根本的には、北秋田市の教育ビジョンにもあるのですが、学習訓練の低学年のときの「ハンドサイン」、誰かが意見を言ったときに同じ意見であるとか、違う意見を持っていますとか、あるいは反対ですということをはっきりと指で示すという訓練の積み重ねがあるからか、5年生や6年生の授業を見たときにグループでの話し合いの際に「僕も同じ意見です。」とか「いや、僕はこういう意見です。」等を素直に出せるため、非常に授業のテンポが良く、授業の内容も充実してくるのだなと思いました。

それともう一つ、重点目標の最初にあるのですが、授業作りとしては、見方、考え方ということをして低学年から考えさせて育んでいるのかなという感じを持ちました。ですから、そういうものを通して子どもたちは、少人数だとどうしても仲が悪くなると尾を引くみたいなどころがあるのですが、そういう訓練をしているから、違う意見があっても当たり前、同じ意見は嬉しい、誰か教えてくれれば「ありがとう」という返事をするという訓練をしていると一人一人が活躍する場も増えるし、他者から認められる自己肯定感も高まっていくところ、視察させていただいた3つの学校にはあるなと感心して見て来ました。

先生方の教材・教具もそうですが、子どもたちを上手にリードしていると感じましたし、やはり発想も違うのかなと感じました。自分で教材・教具を作ることには色々な先生が行うことですが、私の経験からするとどうしても格好良く作ろうなんて考えてしまいますが、北秋田市の学校では身の回りの物を使い子どもたちが簡単に自分で作れるようなものでしたので、私には無かった発想であり面白く見て参りました。

ハンドサインや考え方等は、それ程意識的にはやっていないとのことでしたが、掲示物を見るとその学年に応じた「こういう見方をしよう。」等をきちんとやっていたので、やはり一人の先生の考えではなく、その学校独自でだんだん成長に応じて「こういう視点で育てましょう。」というのは、共有しているなと思いました。

大変参考になり視察に行っても良かったと思います。本市の場合も先ほどの米作りも私の地元の大平小学校も取り組んでおり、人を頼んで苗を育てたり、稲刈りしたり、脱穀したり等をしておりますが、その間の作業部分を子どもたちは見ていないのです。「稲が育ったから見てね」とか、「そろそろ稲刈りになるから見てね」とか、確かに1年間ずっと通じて取り組めば、より良いのであろうなということで、取り組んでいることの発想等をもう一回見直すとずいぶん本市でやっている活動も充実していくのではないかと思います。ありがとうございました。

○**教育長（丹野）** ありがとうございます。それでは、視察に参加できず実際の状況を見られなかった太田委員から、今のお話を聞いてのご質問やご意見等がありましたらお願いします。

○**太田委員** ありがとうございます。それでは、まず関健至委員に伺います。「掲示板で溢れている」「学校全体がまるで娯楽のようだ」とありました。記憶に残っておりますことで、具体的にどのようなものであったのでしょうか。

○**関健至委員** 係の写真や文化祭等笑顔で色々なポーズを取りながらの写真、皆の俳句等が掲示してありました。私の子どもが通う小学校は人数が多いため、習字だけの掲示となってしまいますが、絵の掲示も大変綺麗でしたし、一人一人が作った作品を張るスペースがたくさんあり、また皆に見られると思うためクオリティも高いという感じでした。

○**太田委員** 皆が常にあらゆる場面で主役といった感じでしょうか。とても素敵ですね。ありがとうございます。

○**教育長（丹野）** 関健至委員がお話ししていることを聞きまして、本当に良い目線で学校を見てくださっていると思いました。「娯楽」という表現でお話されていますが、裏を返せば「子どもたちにとって学校はこんなにも楽しいものなのだ」ということなのです。一番重要な部分ですが、阿仁中学校では授業の中で子どもたちが活躍しており、教師が余計な動きや話をしないので子どもたちの学びを阻害する誘因になっていないのです。また、阿仁中学校の先生は、どの先生も元気で明るくハツラツとしていて、しかも子どもに謙虚なのです。謙虚であるために授業中に余計な傲慢な対応をしません。だから子どもたちは学びやすい、つまり子どもたちが本当に困っている部分をそっと関わっていく。この辺は、凄く絶妙だと思いました。ですので、関健至委員の「娯楽」という

視点は、大変良い捉え方をしていると思います。

○佐藤教育長職務代理者 教室の黒板の前に教卓が無かったことも私にとっては、驚きでした。

○教育長（丹野） 先日太田委員からお茶の水女子大学の先生をご紹介いただきましたが、お茶の水女子大学附属小学校にも教卓はありません。私がおりました福島大学附属小学校にもありません。教卓は不要なのです。教え込むための教卓なのですが、教えることが子どもたちにとって学びに変換されていかなければ意味がないのです。そう考えれば、当然であることを秋田県は行っていると思います。黒板の前が子どもたちの学びのステージなのです。自由に行き来できなければならないと考えれば、当然のことだと思います。

子どもが主体で教師が黒子であると考えれば、黒子であるからこそ教師は表情が良くなければならないのだと思います。

○太田委員 先生方は、マスクはしていたのでしょうか。

○教育長（丹野） マスクはしていてもハツラツとしていました。

○太田委員 関奈央子委員のお話で、型から入って良い生活習慣を身に着けさせるために良い見本を先生方が示しているとありました。具体的な例など教えていただけましたでしょうか。

○関奈央子委員 佐藤教育長職務代理者がお話されましたとおり、ハンドサインがまず低学年であって、それと同時に教室に「こう言いましょ」といったものが貼ってありました。でも私が知らないだけで、多くの小学校に掲示されているものなのかも知れませんが、授業を聞いているとそれらを使ってきちんと受け答えができておりました。地元の小学校では聞いたこともありませんでしたので、そのようなものを取り組んで子どもたちの身に付いているのだなと思ったのです。

○太田委員 学校を挙げて子どもの良い人格を育てるための努力をされているのだなと格好良いなと思いました。

○教育長（丹野） 重要なことは、今太田委員がお話されたことであります。

北秋田市の佐藤教育長も仰っておりましたが、小学校1年生から中学校3年生までで子どもを育てていきますから中学校3年生を見て欲しいのだということです。つまり、それは小学校1年生から脈々と今お話に出た学習規範も含めて全部育てていっているということであったのだと思います。

実際に見て、関健至委員もそう思われたのですよね。

○関健至委員 そうですね。実際に中学校3年生のプレゼンを見たら多分そう感じると思います。

○教育長（丹野） ですので、先程佐藤教育長職務代理者がお話されましたとおり、ハンドサイン一つを取ってもハンドサイン単体で考えるのではなく、真面

目に小学校1年生からやっているのです。その蓄積が全て上の学年に繋がっていくというところが「学校力」と言いたい部分なのだと思います。

○佐藤教育長職務代理者　そうですね。もちろん本市も言葉遣いや「こんなときはこう言いましょう」ということ、上手く言えなければ「こう言えば良いんだよ」と意識的に教えている先生もおります。ところが、その先生が関わる1年間は教えられますが、構わない先生になると1年で定着したものが、すぽっと無くなってしまうのです。そういうものが勿体ないなと思っています。

○教育長（丹野）　私は今の話にプラスして、先程先生が子どもに対して謙虚であるとお話しましたが、先生に対して子どもたちも尊敬の念をもって謙虚なのです。私も県内で色々な授業を見せていただきましたが、秋田県の子どもたちは、いわゆる基本的な学習規範をしっかりと持ったうえで、先生にも友達にも向き合っていると思いました。この件に関して二本松市では、学校よりもスポーツ少年団の方が子どもたちを育てていると思います。

○太田委員　佐藤教育長職務代理者にお聞きします。秋田の皆さんは物静かで口が重いとの印象がありますが、でも自分の意見をしっかりと言える。どの辺りでそのようにお感じになりましたでしょうか。

○佐藤教育長職務代理者　例えば、どこかの学年でしたが、相手の意見を聞くときは、自分と同じか、あるいは自分と違う意見か、色々な視点を持って聞きましょうということをおっしゃいます。もう一つは、意見を言ってもらったら、言ってもらった人は「ありがとう」と返すのです。だから、相手に対しても自分の意見を持って色々と言うことができるので、それらのやり取りが多くあるため、最終的には自分の意見が正しいとかいうばかりではなくて、認めてもらった等自己肯定力にも繋がっていくので、大人しいという感じよりは、やはり積極的に相手の話をよく聞いて、自分の意見もしっかりと言おうという感じが自然とできていると思いました。

また、どこのクラスも活発でした。特別支援学級も同様に活発でした。

○太田委員　教育の場において、子どもたちの目つきや笑顔等は、どんな感じでしたでしょうか。

○佐藤教育長職務代理者　基本的には、子ども自身の素質等については、北秋田市も二本松市も同じだと思いますが、その授業における輝きという点は、北秋田市の方があったように感じました。

○太田委員　先程学力が高そうに見える子が多かったとお話されましたが、どの辺りが違うのでしょうか。

○佐藤教育長職務代理者　やはり授業の雰囲気、少人数ということもあるとは思いますが、テーマにしっかりと取り組んでいたりだとか、人の話をきちんと聞いたり見ているとか、そういう雰囲気だけでも全然違うかなとは感じました。

きちんと人の話を聞き、自分の意見を考えたりとすると相手も「聞いているな」と感じますので、それだけでも違うと思います。

○**教育長（丹野）** 複式学級の算数の授業を見せていただきましたが、普通の福島県の授業だと書いてあることをそのまま読むだけの説明になりがちなのですが、北秋田市の子どもたちは違うのです。書いてあることをきちんと自分の言葉で説明しているのです。これが根本的に違うのです。単純な学習批判などではありません。表面的なことではなくて、自分の考えを目一杯人に伝えようという気持ちが凄く強い子どもたちなので学力も高いのだと思います。今求められる学力が正にこれなのです。

自分の考えをいかに他人に伝えるか、聞いた方がそれに対して、疑問点があれば「私はここが分からない」といった言葉が自然と出てくる。これが学びを深めていくということだと思います。主体的で対話的で深い学び、実はこれであり、ここに教師は入っていないのです。

○**佐藤教育長職務代理者** その通りだと思います。秋田の現実を知る前であれば、何となく家庭がしっかりして宿題を出しても皆100%やって、皆一生懸命に勉強しているから学力が高いのであろうとの感覚しか持っていなかった自分が恥ずかしいなと感じました。

○**太田委員** 子どもたちの机上には、iPadも置いてあったのですか。

○**教育長（丹野）** iPadもありました。

○**佐藤教育長職務代理者** iPadもお互いのノートが映るときですが、6～7人でするので、割と大きくて相手を書いているのも良く分かるのです。これが20人になると一度には映せないなどは思いました。

○**教育長（丹野）** 今の件、関奈央子委員は、どのようにお感じになりましたか。

○**関奈央子委員** やはり、少人数によって傍観している生徒がいないことが、まず理由として大きいのかなと思います。北秋田市の中でもより大きな学校ではどうなのかなとそちらも気になったのですが、やはり少人数学校の有利な点はここかなと思いました。

○**教育長（丹野）** 少人数は、過保護になるとの話も出されましたが、少人数は過保護になってはいないのです。逆に大人数の方が過保護になってしまうのではないのでしょうか。

○**佐藤教育長職務代理者** 子どもたちが間違っただけにいかないようにとか、先走って先に指導するということはありますね。

でも少人数だと教師が見ていて、そこから離れれば注意や勉強でも少しづれば、そこから戻してあげますけど。これが、40人学級でやるとそうならないように先に防ぐということは、往々にしてあります。

○**太田委員** 本当に一緒に視察をして来たかったと思いますが、秋田県が学力で

全国一位なのですが、幸福度だと2021年度が全国40位、2020年度だと全国47位。でも先生方も子どもたちも本当に生き生きと幸せそうに学校生活を送っているとのこと。どこで幸福度は失わせてしまっているのでしょうかなんて考えながら皆さんのお話を聞いておりました。

○**教育長（丹野）** 太田委員のお話を聞きまして、あの子どもたちが地域の中に残ったときにやはり共同で、皆で協力しながら困難を乗り越えて、地域を良くしようという力を付けているなと思いました。

あのような教育を受けている子どもたちは、きっと大人になってからも人を否定するのではなく、一緒に補いながら良い街を作っていくことこそが、学力なのだろうなと私は思っただけで帰って来ました。

○**佐藤教育長職務代理者** 幸福度に関しましては、やはり地理的なもの等、色々な理由があるのだと思います。実際に生活しての幸福度だけではないのでしょうか。

○**太田委員** 皆さんのお話を聞きまして思いますのが、やはり地方は地方で素晴らしいですし田舎が素晴らしいと思います。東京が素晴らしいのではなく田舎が宝物のような街だと思います。田舎ですべて生きていくためには、先生方を減らしてはいけなし、魅力ある先生方の環境も作っていかなければなりません。市役所も勤めたいと思ってもらえるような魅力ある職場にしていきたいですし、自営業もちゃんと成り立つ街を皆考えていると思います。何よりもそれを支えていくのは農業だと思っています。教員、市役所、自営業、農業皆が協力して魅力のある街を作り、子どもたちが、しっかりとこの街で生きていけるような環境を作っていく必要があるのだと思います。

○**教育長（丹野）** ありがとうございます。今までこうであったから、私はこう思うからということだけではなくて、今世の中が求めている学校像について、皆でアンテナを高くして、そしてそこへ向かっていくためにはどうしたら良いのかを考えていくことこそが大切であると思います。

○**太田委員** 若い人が中心になって考えていくことが大事だと私もずっと考えておりましたが、ここに混ぜていただいて思うのは、若い人たちも自分たちの考えを持っている。でも経験が豊富な人たちの意見を直接聞けるということは、素晴らしいことだと思います。もっと、どんどん話し合える場があれば良いと思います。

○**教育長（丹野）** 本当ですよ。教育委員と色々な人とが話をし、また我々が聞きながら、それを施策に生かしていく。そんな色々な人の意見を聞く機会が設けられれば、それに越したことはないと思います。そのように柔軟に変えていくことが、機能する教育委員会であると思います。

最後に北秋田市の佐藤教育長が言ったことで、今まで出ていないことを太田

委員へお伝えしたいと思います。

それは、学校教育はインプットだけでは駄目、アウトプットが大事だということ。阿仁中学校のプレゼンの話がありましたが、色々自分たちが地域の人に教えてもらったり、調べたりしたことだけで終わるのではなくて、では、そこから自分たちで何がそれについてできるかということ発信するところまでしないと意味がない。今、二本松市の子どもたち色々な皆さんに出前講座等でお世話になっていますが、インプットだけでアウトプットがないのです。子どもたちが受け身で終わってしまっているのです。これは、二本松市も含めて秋田以外の全部の課題だと思っています。ここは、皆さんと一緒に改善を考えていきたいと思っています。

予定の時間を超過してしまいましたが、以上で本定例会の日程は、全部終了いたしました。

これをもちまして、令和4年二本松市教育委員会11月定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(宣言 午後5時17分)